

1 題材名 自分を見つめて～中学校3年間とこれからの私～

2 本題材の目標

- (1) 構図や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、自分の姿を全体のイメージで捉えることを理解する。コンピュータの特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して創造的に見通しをもって表す。〔知識及び技能〕
- (2) 自分の姿を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、心豊かに構想を練る。造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫点などについて考え、見方や感じ方を深める。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、自分の姿を感じたことや考えたことなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①構図や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、自分の姿を全体のイメージで捉えることを理解している。	思①自分の姿を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、心豊かに構想を練っている。	態①美術の創造活動の喜びを味わい構想を練ったり、工夫して創造的に表したりする学習活動に取り組もうとしている。
技①コンピュータの特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して創造的に見通しをもって表している。	思②造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫点などについて考え、見方や感じ方を深めている。	態②美術の創造活動の喜びを味わい造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫点について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に、主体的に取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材観

中学校3年間で振り返り、印象に残ったことや頑張ったこと、これからの生き方などを主題にして自画像を描く題材である。自画像のため作品の中に必ず自分を表すこととなるが、自分の表し方は自由とした。例えば、身体の一部を描いたり、自分をものに例えて描いたりするなどの表し方で表すようにする。本題材では、画像編集ソフト（以下「描画キャンバス」という）を使って表す。描画キャンバスを使用することで、描き直したい時に絵を元に戻すことができたり、レイヤーを活用した表現の工夫をしたりすることができる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、美術の授業に対して非常に意欲が高い。しかし、心の中に表現したいものがあるにもかかわらず、それを作品として形に表す時に思うようにできなくて困っている生徒を見かける。表現したいものを思うように形にできないことは、表現をあきらめてしまうことにつながっている。これらのことから、創造的に表す技能を高めることができれば、よりのびのびと自分の気持ちを表現できると考えた。

(3) 指導観

本題材では、「試作品をつくる時間」と「見通しを立てる時間」を設定した。初めに試作品を

つくることで描画キャンバスの特性を理解し、作品づくりに生かせるようにする。描画キャンバスの特性として次の四つを位置付けた。①描き直したい時には元に戻すことができる。②レイヤーを使った表現ができる。③単色やグラデーションでの着色が容易にできる。④色の透明度を変えて着色できる。また、「見通しを立てる時間」を設定することにより、作品完成までの描画キャンバスの特性の生かし方や制作順序を可視化し、表現の工夫を考えることができるようにする。

5 題材の指導計画（8時間扱い）

○指導に生かす評価

◎記録に残す評価

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1	学習課題 作者の中学校3年間は、どのような時間だったのだろう。また、作者はこれからどのように人生を歩んでいくのでしょうか。 ・参考作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを記述してGoogle Formsで提出する。 まとめ 作者の中学校3年間やこれからの人生を考えることで、作品のよさを味わうことができた。	○			○	態②：造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫点について考えるなどの見方や感じ方を深めようとする態度を見取り、できていない生徒に対しては視点をもって鑑賞するように助言する。【活動の様子】 知①：構図や色彩などが感情にもたらす効果を理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては複数の参考作品を比較し気付けるようにする。【Google Forms】
2	2	学習課題 中学校3年間やこれからの生き方を、どのように絵に表現したらよいでしょう。 ・ウェビングを通して、自分の中学校3年間とこれからの生き方について考える。 ・自分をものや色などに例えて、自己の表し方について考える。 ・作品の主題を考える。 ・作品の構想を練り、下描きをする。 まとめ 中学校3年間やこれからの生き方を、どのように形や色などで表現すればいいのか考えることで、主題を生み出すことができる。				○	思①：自分の姿を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、心豊かに構想を練っているかを見取り、主題を生み出せていない生徒には自分の好きなことや興味のあることなど身近な物事から主題を見つけるように助言する。【Google Forms】 思①：【下描き】

3 4	本 時	目標：コンピュータの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し見通しをもって表す。 学習課題 中学校3年間とこれからの生き方を表現するために、どのように表現したらよいでしょう。 1 描画キャンバスでできる表現方法について学ぶ。 ・描き直したい時の戻し方 ・レイヤーの使い方 ・拡大、縮小、移動の仕方 ・描画キャンバスで利用できる画材の表現（鉛筆、ペン、マーカー、チョーク、消しゴム） ・色の作り方 ・むらなく色を塗る方法 ・グラデーションの作り方 ・線の太さや不透明度の変更の仕方 2 描画キャンバスで試作品をつくり様々な表現方法を習得する。 ・試作品をつくりながら、主題を表すために適した表現方法を見つける。 3 作品づくりマップに取り組み、どのような順序で作品づくりをしていけばよいか、見通しをもつ。 まとめ 中学校3年間とこれからの生き方を表現するために、表現方法を選んだり、試したりすることが大切である。				○ 態①：コンピュータの特性を生かして表そうとしているかを見取り、できていない生徒に対しては様々な特性を試してみるように助言する。【活動の様子】 ○ 技①：コンピュータの特性を生かし、表現方法を工夫して創造的に表すことができているかを見取り、できていない生徒には他の生徒の試作品を紹介するなどして助言を行う。【ワークシート、下描き】
3	5 6 7	学習課題 中学校3年間とこれからの生き方を表現するには、どのように彩色すればよいだろうか。 ・描画キャンバスを使って彩色する。 ・仕上げに、サインを入れる。 まとめ 中学校3年間とこれからの生き方を表現するために、色彩が感情にもたらす効果を考え彩色することが大切である。	◎	◎	◎	◎ 態①：【活動の様子】 技①：【作品】 知①：【ワークシート】

4	8	学習課題 作者の中学校３年間は、どのような時間だったのだろう。また、作者はこれからどのような人生を歩んでいくのでしょうか。			
		・友達の作品を鑑賞し、作者の中学校３年間やこれからの生き方について考え、表現の意図や工夫点、作品のよさを味わう。			
		まとめ 作者の中学校３年間やこれからの人生を考え、表現の意図や工夫点を感じ取ることで、作品のよさを味わい、見方や感じ方を深めることができた。		◎ ◎	思②：【ワークシート】 態②：【活動の様子】